

平成26年のアユ資源調査結果概要

寺井 章人・吉岡 剛・田中 秀具・井出 充彦・
井戸本 純一・臼杵 崇広・幡野 真隆・佐野 聡哉

1. 目的

アユの資源水準や成育状況を評価するため、魚群調査、産卵状況調査、ヒウオ生息状況調査および成育状況調査を実施した。

2. 方法

魚群調査では、1月から8月まで毎月1回、北湖の水深30m等深線付近の定線調査コース上に出現する魚群数を観測した。

産卵状況調査では、8月から10月にかけて5回、北湖に流入する11河川の産卵場においてアユの産卵量を調査した。

ヒウオ生息状況調査では、10月から12月まで毎月1回、北湖において網口1m×2mの

角形幼生網による1,000mの水平曳きを18回、行い1曳網あたりのヒウオ採集尾数を求めた。

成育状況調査では、エリとヤナの漁獲標本を収集し、体長等を測定した。

3. 結果

魚群数は平年の12～49%で推移した(図1)。

産卵量は70.7億粒で平年の約65%であった

(図2)。ヒウオ生息密度は平年の22～55%で

推移した(図3)。漁獲魚の平均体長は、ヤナの6、7月およびエリの7月で平年をやや上回ったが、ほぼ平年並みの推移を示した(図4)。

これらの調査結果は水産試験場ホームページに掲載し、漁業関係者等へ情報提供した。

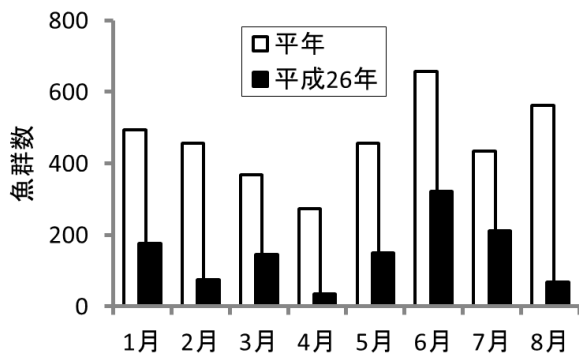


図1 魚群数の推移
平年とは過去10年から最大最小値および欠測年を除いた平均値

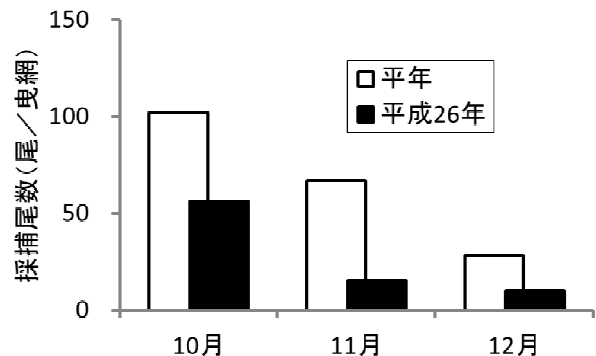


図3 ヒウオ生息密度
平年とは過去10年から最大最小値および欠測年を除いた平均値

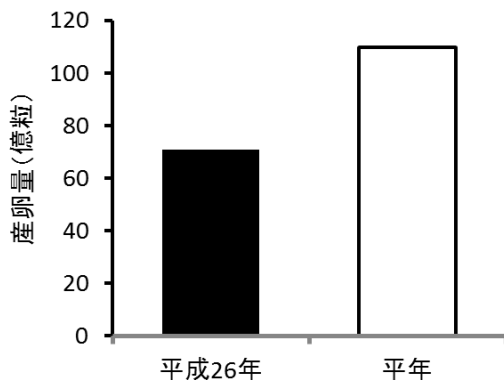


図2 天然河川における産卵量
平年とは過去10年から最大最小値および欠測年を除いた平均値

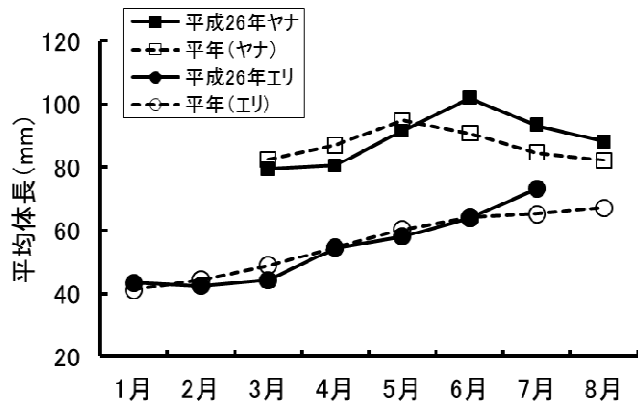


図4 エリヤナ漁獲魚の平均体長
平年とは過去10年から最大最小値および欠測年を除いた平均値